

「子どもスポーツ記者」奮闘記

5月18日(土)に山下公園周辺で開催された「2019 IRTU世界トライアスロンシリーズ・パラトライアスロンシリーズ横浜大会」で、15名の子どもたちがキッズプロジェクト「子どもスポーツ記者」に参加しました。

今年で5回目となるこの「子どもスポーツ記者」は、エリートパラトライアスロン、エリート女子のレースを撮影し、選手への取材を体験した後、新聞記事にまとめます。

子どもたちは、大会前日からワークショップに参加し、新聞記事の書き方やカメラの操作方法を教わりました。一眼レフカメラにワークワーカーシッターを押す手が止まりません。翌日に向けて、良い準備ができました。

さて、いよいよ大会当日。朝6時30分に集合すると、早速エリートパラトライアスロンのレースの取材です。目の前を通りすぎる選手たちのスピードに圧倒される子どもたち。真剣な表情でフラインダーをのぞいている姿が印象的でした。

レースの撮影が終わると、待ちに待った記者会見。今回、質問に答えてくれたのは、エリートパラトライアスロンの円尾敦子選手、中山賢史朗選手の2名。直前まで過酷なレースを練り広げていたアスリートが目の前に。1人ずつ事前に考えていた質問を投げかけ、熱心にメモを取っていました。

参加者の中には、スポーツが苦手な子もいれば、大好きな子も。今回の体験を通して、「スポーツに関わりたーい!」と思ってくれた子もいました。さまざまなきっかけを抱く子どもたちが、力を合わせて一緒に活動できたことは、素敵な思い出として心に刻まれています。



横浜子どもスポーツ基金

YOKOHAMA CHILDREN SPORTS FOUNDATION

すべての子どもたちに
スポーツ活動に参加できる環境を!

「横浜子どもスポーツ基金」は、障害のある子ども達等へ「スポーツ」を通じて、夢と希望を持って育ち、身近な地域でスポーツ活動に参加できる環境作りを行うことを目的に、「横浜トライアスロン」をきっかけにジョンソン株式会社からの寄附により誕生しました。



For YOKOHAMA
children's smiles



詳細は
URL <http://yokohama-csf.jp/>

sc Johnson
A family company
at work for a better world

